

メデュカパスの卒業生は、どのような独自の教育システムを活用したことによって、医学部合格を実現したのでしょうか。数学科の吉良敏宏講師と、OGの大原三佳さん（昭和大学医学部2年）に語り合っていました。



数学科講師

吉良 敏宏氏

が、私立医学部では、問題を見て、瞬時に最適な解法を選択しなければなりません。メデュカパスでは、夏以降、オリジナルテキストや過去問を用いて、最も効率的な解法のテクニックを教えます。ただし、前期の授業ではまず、標準的、模範的な解法を習得させます。それが身についていない段階で、テクニックに走っても通用しないからです。きちんとした実力を備えた上で、最適な解法を選択できる力を養っています。

大原 迅速に解く方法を教えてもらったおかげで、余裕が生まれ、昭和大学の入試の数学では、5分前に全問解き終えて、見直しの時間を作ることができました。しかも、大問丸々1題、「確認テスト」とほぼ同様の問題が出題され、ラッキーでした。

吉良 かなり難しく、差がつきやすい問題でしたから、有利だったと思います。手前味噌になりますが、オリジナルテキストは、旧両国予備校時代から蓄積されてきた頻出問題をベースに、毎年、新傾向の問題を加味して改良していますから、入試本番で類似問題が出題されることが少なくありません。

面倒見の良さが魅力 寮や食堂も完備

大原 アットホームな雰囲気でも面倒見が良いことも、メデュカパスの魅力です。私はネガティブな性格で、入試本番が近づいた頃、「まだこんな問題も解けない」と、焦りが高じて、精神的に辛くなり、勉強

に手がつかなくなることも多々ありました。そんなとき、田村校長先生に、泣きながら気持ちを聞いてもらい、慰めていただきました。「あなたなら、きっと受かるわ」と、前向きな言葉をかけてもらい、すっと心が落ち着きました。

吉良 生徒のほぼ半数は女子ですが、悩んだときに相談しやすい女性校長の存在は大きなものがあるようです。

大原 つい根をつめて勉強しがちになりますが、毎日30分間、食堂で仲間と一緒に夕食を摂る時間が決められていたのも、いい気分転換になりました。仲間とちょっとした会話を楽しむことで、ぎすぎすせずに受験勉強を乗り切ることができました。

吉良 実は創立当初、寮がなかったこともあって、7時前後に夕食を食べに行つて、そのまま帰宅する生徒が数多く見られました。それでは医

学部合格できるだけの勉強量は確保できません。そこで、朝9時から夜9時まで強制的に勉強してもらうために、寮や食堂を整備したのです。その効果は大きく、合格率が飛躍的にアップしています。

大原 私は体力に自信がなかったもので、校舎から徒歩すぐの距離にある男女別の寮に入りました。それによって、通学時間帯のラッシュで疲れることが避けられ、体調を崩すこともなく、1年間皆勤できました。夜9時まで強制的に勉強を課されるのは大変ではなかったかと、よく聞かれますが、逆に安心感が得られました。何よりも、分らないところはすぐに先生に質問でき、その日のうちに疑問が解消できる環境があったかったですね。

吉良 最後に、これから医学部をめざす後輩へのアドバイスをお願いします。

大原 受験勉強の1年間は長く、挫折しそうなこともあるかもしれませんが、自分とメデュカパスの教育システムを信じて、最後まで頑張り抜いてほしいと思います。たとえ模試の判定が悪くても、粘り強く勉強を続けていけば、必ず良い結果に結実します。

吉良 11月の最後の模試で判定が良くななくても、その後の数カ月で大幅に伸びる生徒もたくさんいます。自分とメデュカパス、片方だけではなく、両方を信じることができれば、必ず合格は勝ち取れます。

